

1 原爆の子の像と千羽鶴奉納について

僕達は、三日目の朝早くから原爆の子の像へ千羽鶴を奉納しました。

原爆の子の像は、二歳の時に原爆により被爆し、十年後に白血病と診断された禎子さんが、入院中に薬の包み紙で折った鶴が元となっています。原爆は、何年かたっても沢山の人の悲劇をもたらすのだと思うと、核がなくなればいいと改めて強く思いました。

禎子さんは、白血病診断から八カ月後にわずか12歳でこの世を去りました。だから、千羽鶴には禎子さんをはじめ、原爆により亡くなられた方々のご冥福をお祈りすると共に、二度と同じことを起こさないという誓いが込められています。

また、核保有国に対し、核のせいで沢山の方々が被害に遭ったことを伝えるメッセージなのだと思いました。

2 千羽鶴を奉納したときの気持ち

奉納する場所には数えきれないほどの千羽鶴が奉納してありました。ひとつひとつの鶴にひとりひとり、平和への願いを募らせました。戦争への各自の思いは「平和な国になってほしい」や、「笑顔が増えてほしい」など、違いますが、それがどんなに小さくてもきつと強く、大きな思いに変わったことでしょう。

今までは「戦争」はあってはいけないもので「平和」になってほしい、と言っているだけだったけど、学校代表として、栃木市代表として、平和大使として、行った千羽鶴奉納を通して今は身を持って堂々と平和への願いを言えます。

核兵器の廃絶と平和で安心して暮らせる社会の実現の夢を、千羽鶴に託しました。この千羽鶴が被爆された方の心に、はばたいていって届くことを願います。

3 講師の方の紹介

僕たちに被爆したときの話をしてくださったのは、当時19歳だった新宅勝文さんです。

新宅さんは、僕たちに誰も見ることはない広島のことをたくさん話してくれました。

昔、広島は軍が訓練をすることころで、そこから兵が出たそうです。小学生は軍旗をもって列に並んでいました。その旗は命より大切だったそうです。日本は、軍事大国日本と呼ばれるほど、とても軍事力が強かったそうです。日本の食べ物の味をよくあじわってから、戦争に向かった兵士たちはもう帰ってこないことを覚悟で向かいました。

たくさん戦いをくり返してるときに、大型爆撃機、いわゆる原子爆弾が投下されました。新宅さんは助かったものの、町には焼けこげた人の死体のごろごろと転がっていたのです。命があるとしても、新宅さんに助けてもらって、最後にはみんな亡くなってしまおうというとても残酷なことの連続で、新宅さんは、「そんな中生きている私は、化け物かもしれない。」とっていました。そんな新宅さんは僕たちに心に花を咲かせなさい、と。人間という愛の花を咲かせて、光を見つけてくださいと

くださいました。新宅さんが話していただいたことは、次の世代に受け継いでいかなければならないものでした。

4 講話を聞いた感想

私は被爆講話学習が始まる前、とてもドキドキしていました。今回私たちに講話をしてくださった新宅さんが部屋に入ってきた時は本当にドキドキが止まりませんでした。

「どんな話をしてくださるのだろうか?」「戦争とはどういうものだろうか?」

などという疑問が私の頭の中でグルグルと回っていました。そして新宅さんの講話が始まると私の疑問は一つ一つ解消されていきました。しかし、それと入れ替わりに、「何で戦争というものをするのだろうか?」という疑問が湧いてきました。

新宅さんの講話は、本当に涙が止まりませんでした。どんな時でも、どんな時代でもやっぱり家族が大事なんだと感じるエピソードがたくさんありました。

私は、とても平和な時代に生きていて、たくさん両親から愛をもらっています。今までこれがあたりまえのことだと思っていたけれど、新宅さんの講話を聞いて、「家族からの愛」は、かけがえのない幸せだなと思いました。

私は、新宅さんからのたくさんの戦争時のエピソードを聞いて、もう二度と戦争はしてはいけないと感じました。そのためにも、たくさんの身近な人達に戦争の悲惨さ、平和の尊さを伝えて、しっかりと感じてもらいたいです。

この世界から、「戦争」という二文字がなくなり、「平和」という二文字が似合う地球になるのが私の願いです。

5 講話から学んだこと

僕は広島での講話を通してたくさんの人の気持ち、当時の状況、戦争や核の恐ろしさなど色々なことを学ぶことができました。その中でも一番深く考えることができたのが、命の価値です。戦争によって尊い命が奪われてしまいました。広島では原爆によって、多くの方々の命が一瞬にして奪われてしまいました。講話の中でもたくさんの方が無残な姿で亡くなっていたということをお聞きして、とても悲しい気持ちになりました。命は人が皆、平等に持っているものなのに、それを戦争や原爆によって奪うということは間違いだと思います。原爆によって亡くなられた方々は生きたかったと思います。生きて幸せに暮らしたかったと思います。でも、その気持ちさえも奪ってしまうのが原爆だということを教えていただきました。

講話を聞いて今まであまり知らなかった戦争のことを知ることができました。講話で学んだことを色々な人に伝えて、自分も学んだことを活かして、命を大切に、心の中に愛の花を咲かせたいです。

以上